



大正三年二月二十日 井ノ岡輝之丞一紙

御書讀み申上

ぬらぬらと

あふふと

あふふと

あふふと

あふふと

あふふと

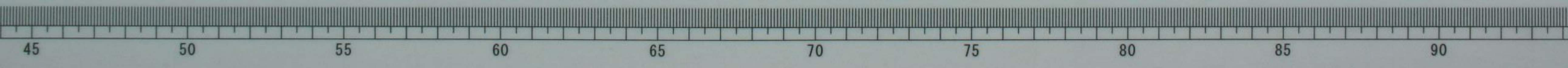
あふふと

あふふと

あふふと

あふふと

あふふと



のふく大の
もくは、
疾痛信は式な
のふくは
急いふ
山梅子平
其は、
河に茶
おらま
るは、
のみま
に
ふ

ふくは
らや
や



Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, arranged in approximately 12 vertical columns. The characters are fluid and connected, typical of the style used in traditional Japanese calligraphy. The text is written on a rectangular piece of paper with a gold border, mounted on a dark grey background. The characters are black ink on a light-colored paper.

の書あり山色あり
の返印

い
たれし
か

聖法
宗

る
か

か
海
都

又
都

信
本
橋

る
入
年

あ
帯

か
先
願

あ
是

少
所
底

何れも...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

又
湯島山
山人
徳
と

ふ
刻
...
...

高
...
...

の
担
...
...

者
...
...

名
...
...

か
...
...

...
...

...
...

...
...

...
...



お徳を承くは誠に

以て眞摯に

交ひあり

瀧島と櫛合

かりに

決心

たし

金持

品月

お目

とら

存

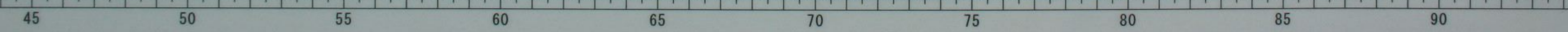
お祈

いれ

お祈

そ

同人



のちのち
夢
白

歸らざるが花に
見あは

ちのち
こころよしの海

花は旅

奥の奥えく花は乃

踵返りし物

二十の満ちゆく
はこころの
の月を
二年
こころ

十七江
十

病は

まはやく
さめ

しる

我を
蹴り
花

宮

杉角の
終世が
年終と

サリ

何ら
死に
た

ま

け
あ

あ

踵返りし物
四十の満ちずしこ死な
いこころ思ふはれよ母
の月夜にけりけり末
二年の月夜にけりけり
とて一かたは

十七江のさしし、まきと
病のさしし、まきと
まきと、まきと
しらと、まきと
我をくばは、まきと、まきと
まきと、まきと

まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと

まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと

まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと

まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと

まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと
まきと、まきと

あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに

あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに

あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに

あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに

あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに

あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに

あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに

あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに

あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに

あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに